

シニア・ストラテジスト
山本 雅文

マネックス証券株式会社
www.monex.co.jp

株・金利睨み

<ポイント>

- ◆昨日は、週末のギリシャの資本規制導入発表とデフォルトリスクの高まりを受けた市場のリスク回避的な動きから、米利回りの大幅低下と共にドルが下落傾向となり、ドル/円が一時 122.11 円へ下落、円は全面高となっている。
- ◆対ドルでの上昇率は円が一位、次いでフランとなった。スイス中銀はフラン高阻止でフラン売り介入を実施したことを確認した。他方、先般黒田総裁がこれ以上の円安を追求しない姿勢を示したことで、円の避難通貨としての性格が相対的に強まりつつある。
- ◆中東欧通貨への影響が大きく、ロシアルーブル、トルコリラ、南アランドの下落が大きかった一方、ポーランドズロチやハンガリーフォリントの下落は一時的に留まった。
- ◆他方、ユーロは、ギリシャのデフォルトリスクにも拘らず、米利回りの低下が大きかったことからドル安の影響を強く受けたかたちで、早朝に急落した後、急反発し先週末の水準である 1.12 ドルを回復した。対円や対スイスフランではユーロ安だが、下落幅は小幅に留まった。
- ◆本日は、ギリシャの対 IMF 債務返済および第二次支援交渉の期限到来、英 1QGDP 確報値、ユーロ圏 6 月 HICP、米 4 月 S&P ケースシラー住宅価格および 6 月シカゴ PMI などが発表予定となっている。
- ◆ギリシャのデフォルトはほぼ確実だが昨日から既に織り込んできており、本日も株安・欧米金利低下が続くかが焦点となる。株安・米金利の低下が続くようだと、ドル/円は 122 円割れの可能性もある。市場が沈静化すれば持ち直すとみられるが、7 月 2 日の米雇用統計、5 日のギリシャ国民投票を控えて積極的なポジションテイクは控えられそうだ。ドル/円は 122 円台半ばでのみ合いとなりそうだ。

昨日までの世界：ユーロ/ドルが急回復

ドル/円は、ギリシャのデフォルトリスクの高まりを受けて週末の 124 円丁度近辺から東京時間早朝に一時 122.11 円へ急落した。その後、東京時間にはドル押し目買いの動きからか 123 円台を回復する局面も見られ、欧州時間は米中長期債利回りが一旦急落後に反発基調となったことも、下支え要因となった。もっとも、NY 時間は、米株価の下落が収まらない中で米中長期債利回りが反落したことから上値の重い展開となり、122 円台半ばで引けている。

ユーロ/ドルも、ギリシャのデフォルトリスクの高まりを受けて早朝に 1.11 ドル台後半から一時 1.0955 ドルへ急落して始まった。欧州時間入りにはギリシャ国債利回りが急上昇の一方、ドイツ 10 年債利回りは急低下し、またスペインやイタリア国債利回り上昇にも波及が見られた。もっとも、欧州時間入り後にはじりじりと反発に向かい、一時 1.1278 ドルと先週末の水準を上回って引けた。ユーロに特段の買い材料は出ていないが、ドイツよりも米利回りの下落の方が大きかったことから、金利差の観点からはユーロ買いドル安だった面がある。

ユーロ/円も、早朝にドル/円とユーロ/ドルが共に大幅下落したことから、138 円台前半から一時 133.78 円へ急落した。もともと、その後はユーロ/ドルの反発と共に一時 138 円台を回復、結局 137 円台半ばで引けている。

豪ドル/米ドルも、ギリシャ問題を受けて早朝に 0.76ドル台半ばから一時 0.7587ドルへ下落して始まった。もともと、下落幅は非常に限定的だったほか、その後アジア時間中に先週末の水準を回復、むしろ米ドル安の影響を受けて 0.77ドル台へ続伸した。

豪ドル/円は、早朝に 94 円台後半から一時 92.68 円へ急落したが、その後の豪ドル/米ドルの反発基調を受けて 94 円台を回復して引けている。

きょうの高慢な偏見:株・金利睨み

[今週の見通しはこちら\(6月26日付FX戦略ウィークリー\)](#)

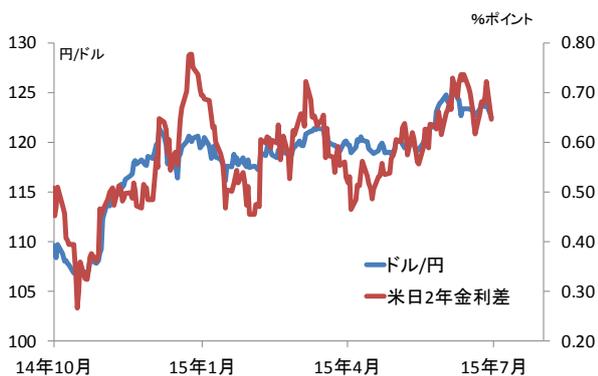
[今週の経済指標カレンダーはこちら](#)

ドル/円は、ギリシャのデフォルトを受けて株安・米金利の低下が続くようだと、122 円割れの可能性もある。市場が沈静化すれば 123 円方向の動きもあるが、7 月 2 日の米雇用統計、5 日のギリシャ国民投票を控えて積極的なポジションテイクは控えられそう。なお、米経済指標では米 4 月 S&P ケースシラー住宅価格および 6 月シカゴ PMI が発表予定となっているが、足許の株安を受けて今後各種センチメント指標が悪化する可能性が高い中で、シカゴ PMI が多少改善してもドル買いでの反応は限定的となりそう。

ユーロ/ドルは、ギリシャを材料に売っているのか、買っているのか不明確で、諸説紛糾している。最近の動きによれば、米利回りとドルの動向の影響を受け易いことから、米利回り動向を睨んだ展開となりそう。なお、本日はユーロ圏 6 月 HICP の発表が予定されており、市場予想は前月の+0.3%から+0.2%への低下が予想されているが、昨日発表のドイツ分は前年比+0.1%と、前月および市場予想(各々+0.7%、+0.4%)を大きく下回っており、下振れリスクがあり、どちらかというところユーロ安要因だが、ギリシャが焦点となる中でユーロの反応は限定的となりそう。

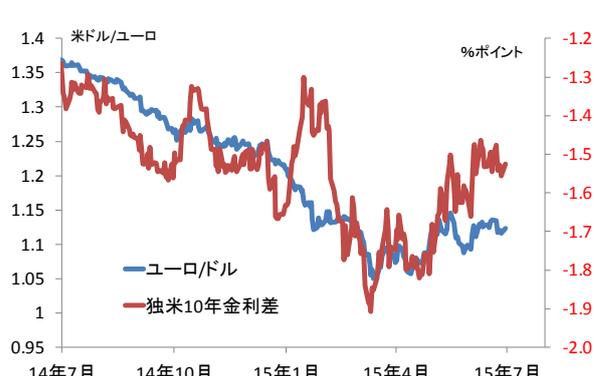
豪ドル/米ドルは、安値圏で推移しているがユーロ/ドルと同様に米利回りと米ドル相場の動向に左右されやすい展開が続くそう。本日は Stevens・RBA 総裁発言が予定されており(17:40)、豪ドル安志向を繰り返す可能性はあるが、金融政策での対応(利下げ)の可能性が高まらない限り、から脅しと捉えられ、市場の反応は限定的となりそう。

米日2年金利差とドル/円



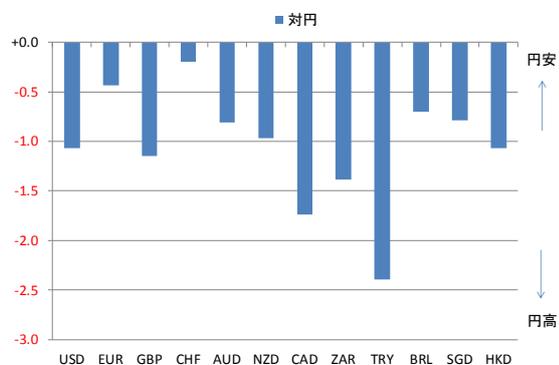
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

独米10年金利差とユーロ/ドル



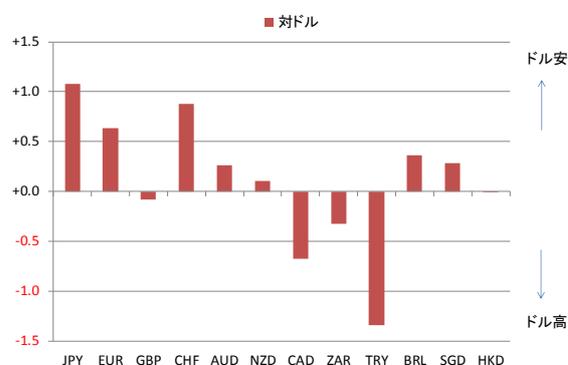
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要通貨の対円相場(前日比%)



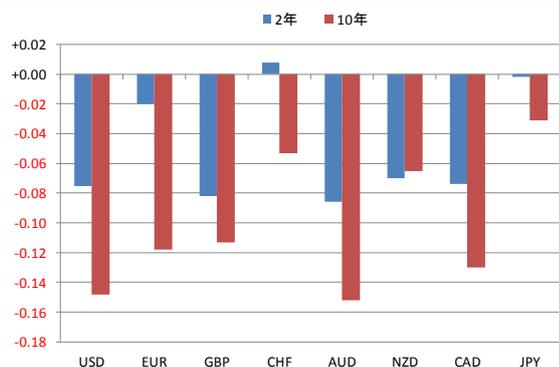
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要通貨の対ドル相場(前日比%)



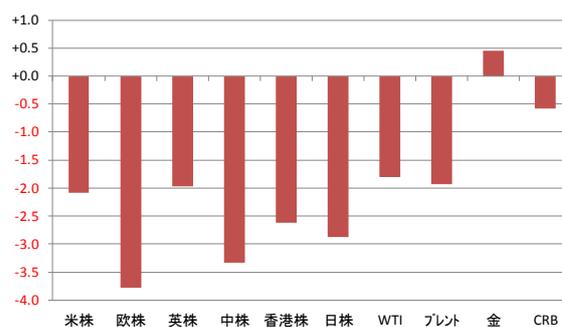
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要国の中長期債利回り(前日差%ポイント)



(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要株価・商品価格(前日比%)



(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

利益相反に関する開示事項

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先証券会社より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

- ・当社は、本レポートの内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。
- ・記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。
- ・提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。
- ・当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会